

月刊 やちまなこ

2023.12.15 発行

No.313

12月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ワカサギ（公魚、若鷺、*Hypomesus nipponensis*）

冬の塘路湖の主演と言ってもよい一年魚。集団で追い込み漁をするカワアイサから逃れるためなのか、浅い岸辺で群れていた。部分的に凍っている氷の下が天敵から身をら守るために好都合らしい。鳥たちから逃れたとしても、水温低下に伴い湖内に入って来たアメマスも恐ろしい。完全に凍結する時期になると、最大の天敵である人間が道具を駆使して待ち構えている。

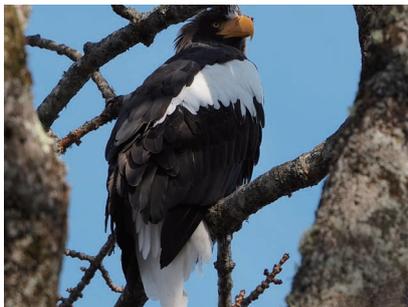
漢字の由来は江戸時代、麻生藩の藩主が将軍徳川家光に霞ヶ浦の焼きワカサギを献上して喜ばれて以来、御公儀の魚ということから「公魚」と書くようになったと伝わる。



塘路フィールドノート【11/15~12/14】

【野鳥】

記録的な猛暑が続いていた夏~秋でしたが、気温低下が一気に来て湖面の結氷も起こりました。しかしほんの数日の雨と暖気で氷は消えてしまい、野鳥たちも例年とは少し異なる動きを見せているようです。



オオワシ (塘路湖畔)

湖畔沿いの樹木に止まっています。樹上から周囲を見渡す姿は貫禄十分です。



シロハラゴジュウカラ (茅沼)

この時期逃げることを忘れたのか人を無視して夢中で食事をしています。



カワアイサ (塘路湖畔)

結氷する前の湖には大挙してやってきました。そこへカワウもユリカモメも乱入です。



ホオジロガモ (塘路湖)

今年は例年より見かける機会が多め。北岸で採餌している姿もよく見かけます。



シマエナガ (塘路湖)

冬の目撃率が高くなる人気の留鳥。ジュリジュリりの鳴き声とともにやってきます。



オオバン (塘路湖)

潜りがうまく水草の根や小動物を食べます。ひれのような弁足が特徴。クイナ科。

【植物・菌類】

紅葉が不作の今年の秋が終わり、なかなか植物に目が行かなくなる冬です。しかしよく観察すると、秋の名残を残すもの、来春の準備を終えて冬の到来にスタンバイしているものなど、植物たちの様々な姿に出会えます。



ミズナラ (水楢)

冬芽には1年分の葉がプログラムされていて



タヌキノチャブクロ (狸茶袋)

茅沼蝶の森でみたホコリタケ科のキノコ。中が白い幼菌の状態は食用とされている。



フッキソウ (富貴草)

蕾をつけて雪の下で越冬し、来春花を咲かせます。草とはいえ常緑小低木。ツゲ科。

◎凍結と融解を繰り返して～シラルトロ湖

11月終わりから12月初めにかなりの気温低下(-13℃)があったために周辺の水辺に氷が張ることがありました。シラルトロ湖の湖面にも結氷が起り、しかも氷丘脈(御神渡り)のような亀裂が対岸まで達していたのです。このまま暖気せずに凍結を維持できていたらかなり大きなせり上がりになり成長するかもしれないと思いきや、2日後の高温と雨が氷を融かしてしまいました。ちなみにアイヌ語ではカムイパイカイノカ(神が歩いた跡)というそうです。



一度現れた氷丘脈の卵(12月6日)

◎耳が伸びーる!! ように見える

秋冬に出会える確率が高いエゾリスですが、夏と冬で耳の長さが違うように見えます。夏でも冬でも体温を保てるよう夏と冬で体の毛を入れかえるのです。冬には長くふさふさした冬毛で寒さから身を守ります。耳のまわりの毛は特に長くてあたたかそうです。夏になると冬毛は抜けて短い夏毛に入れかわります。夏に出会うエゾリスがほっそり見えるのは、冬に比べて毛が短いからです。



◎個性豊か! 恒例のクリスマスリース作り

11月25日(土)、7歳から80代までの老若男女が参加し、毎年恒例のクリスマスリースを作るイベントを行いました。ヤマブドウやツルウメモドキなどの蔓植物を巻いて作った土台に、自然素材やオーナメント素材を接着して飾り付け、オリジナルのリースを作成しました。

講師のアドバイスを受け作業にとりかかると、次第にイメージを固めていき、最終的には参加者のセンスによって個性豊かなリースを作り上げることができたようです。ニオイヒバをはじめとする緑の素材を中心にしたものや、土台の木の雰囲気を生かし松ぼっくりやドライフラワーで飾ったシックなものなど、多種多様な雰囲気の作品が出来上がりました。

参加者 13名



◎草木染体験を開催しました

12月2日(土)、塘路湖周辺で収集した自然素材を使った草木染めを体験できるイベントを開催しました。最初に参加者全員で遊歩道脇に落ちている木の実や小枝、笹の葉、小石などを拾い集め、天然の染料(ドンダリの帽子や木の実など)で煮出すために塘路湖の水を汲みました。配られた白生地に各々拾ってきた自然素材を巻き込み、麻紐や輪ゴムでとめて、



染料の解け出した湖水に投入。煮終わった生地は一度水で濯いだあと、これらの染料をより生地に馴染ませるために、ミョウバンや鉄を入れた湖水で再度煮出し、木の実や小枝を解いて、濯ぎ干しを経て完成。作品は人工の染料とはひと味違う自然な仕上がりとなりました。

参加者 16名

1月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

氷上の塘路湖を歩こう

[日 時] 1月13日(土) 10時~12時

[定員・参加料] 10名 無料

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

湿原アニマルトラッキング

[日 時] 1月14日(日) 10時~12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 11/15(6:13,15:58). 11/30(6:31,15:48).12/14(6:45,15:47)

～指導員の独り言～

■かつて、明治以前に蝦夷地と呼ばれた北海道では、アイヌが仕掛け弓を用いて狩猟を行っていた。アマツポ(アマクウ、クワリとも)と呼ばれる自動発射弓は自然にある素材で作られ、鏃にはエゾトリカブトやテンナンショウの根から作った毒が仕込まれた。開拓が進むと和人が罠にかかる事故が続出し、明治9年(1876年)、開拓使はアマツポの使用を禁止。アイヌには銃を貸し出す政策を採った。それから約150年、なんとヒグマのニュースの多い1年だったか。冬眠時期に入れば安心して来春まで冬の遊びができるというもの。もし冬眠しない個体が出現したら、恐ろしや。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00 ~ 16:00

(4~10月: 17:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日~1月3日

入館無料